



成果指標				
成果指標	そば乾燥調整施設を利用した刈取り作業面積			
指標設定の考え方	施設活用の効果の判断基準となる作業面積を上まわること。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目 標	600a	600a	300a	300a
実 績	517a	484a	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	D
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	2	
課題認識	そば乾燥調整施設について、生産者の高齢化と共に栽培面積が縮小しているため、後継者の養成が必要と考えられる。 収益性が低いことから、廃止を含む方針を検討する必要がある。 淡水魚養殖施設について、			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	淡水魚養殖施設について、事業化が難しい状況であり、また平成29年5月を以って財産管理上の耐用年数は終了することから事業廃止を視野に入れた検討が必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価段階で低評価となっていることから、行政評価委員会に諮る。

### 行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばだけでなく、ほかの商品も乾燥できるようにするとよい。</li> <li>・市がそばに対してどうしたいのかわからない。クラフトの里に出荷する生産者のためにここまでお金をかけるのか。</li> <li>・事業の対象は市民全般ではなく、そばの生産者や魚の養殖管理をする人だろう。</li> <li>・特産品の開発、育成強化という事業の目的からずれている。目的を見直さない限り、事業を続けるべきではない。</li> <li>・そばの生産が小規模すぎる。四国の名産にしたいというなら分かるが、なぜこの事業をやっているのか疑問である。</li> <li>・10人の生産者のために市の税金を使うのが妥当かどうか。クラフトの里のウリと言うなら、この生産だけでなく、販売も含めた効果があるという考え方が大事になる。中山の自然の豊かさをウリにするなら事業の再構築が必要である。</li> <li>・ペヘレイの廃止の方向性は致し方ない。その方向で良いと思う。</li> <li>・なぜそばなのか。目標が6反とか実績が4反とか5反とか勝負にならない。この事業にかかるお金とエネルギーをもう少し中山栗に注いだ方が得策である。施設有りきという発想ではなく、何でできたのか根本的に考え直す必要がある。</li> </ul>
---------------------------	--

### 経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>事業の縮小を検討する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>ペヘレイを廃止した後についても地元へ払い下げか市が撤去して山林所有者に返すのか検討しておくこと。</p>